

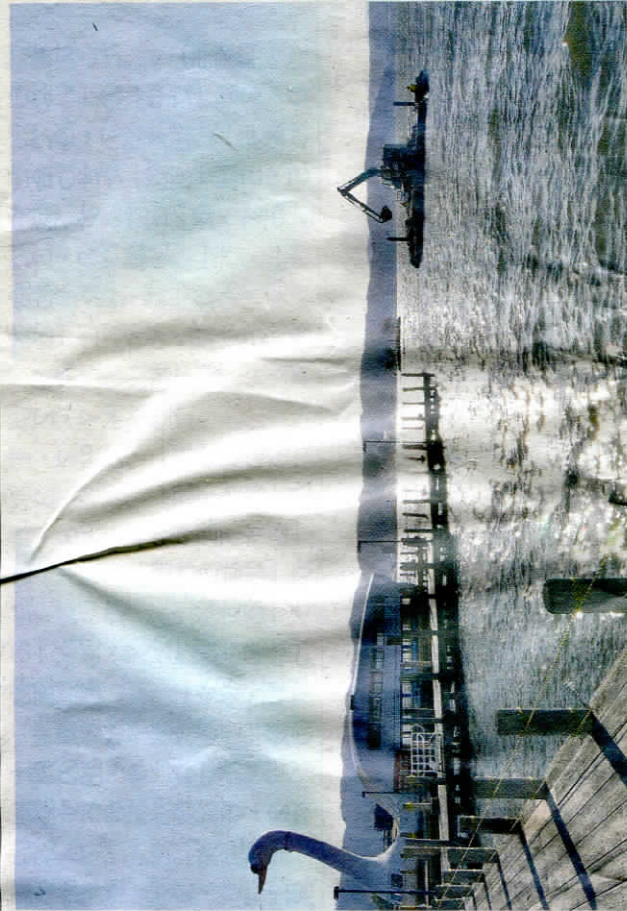
利水・生態系保全へ 諏訪湖しゅんせつ

県、初島周辺で始まる

県諏訪建設事務所は、利水と生態系保全を目的とした諏訪湖のしゅんせつを、湖面利用や観光利用が多い諏訪市湖岸通り沖の初島周辺で始めている。現在の水深がおおむね2.5程度の地点で底にたまつた底泥や土砂をすくい、3桁

の水深を確保する。除去量は2400立方メートルを予定。春の大型連休前の4月中には完了させる計画だ。

測量を経て今月から現場着工し、汚濁防止用フェンスを張った区域内で台船上の重機を動かしている。しゅんせつ



諏訪湖に浮かぶ初島周辺で始まった利水・生態系保全を目的としたしゅんせつ。台船上の重機で湖底の底泥や土砂をすくい取っている

土湖畔の農有地に揚げ、改良剤を混ぜて処理する。事業費は約9000万円。シガタクス（諏訪市）が仕事を請け負った。

利水・生態系保全目的のしゅんせつは、昨年3月に改定した湖の総合計画「諏訪湖創生ビジョン」に新たな取り組みとして明記し、官民でつくる諏訪湖創生ビジョン推進会議にワーキンググループを設置した。事業の希望箇所として1カ所が挙がり、メンバーが必要や公共性、有効性の観点から点数化。最も高かった初島周辺で試行的、部分的に実施することを決めた。

一帯は観光遊覧船の航路であるほか、水草ビシの繁茂区域でもあり、県環境部は工事の前後の状況を比較し、しゅんせつによってビシの繁殖を抑えられるかも検証する。

県は、流入河川の河口部で治水目的のしゅんせつは行っているが、水質浄化を目的とした大規模なしゅんせつは既に中止している。

推進会議は3月14日午前10時から、今回の実施箇所を遊覧船に乗って見学する勉強会を開く。一般も参加でき、定員は60人（参加無料）。諏訪湖観光汽船の乗り場に集合する。申し込みが必要で、問い合わせは事務所の県諏訪地域振興局企画振興課（電話0266・57・2001）へ。

（鮎沢健吾）